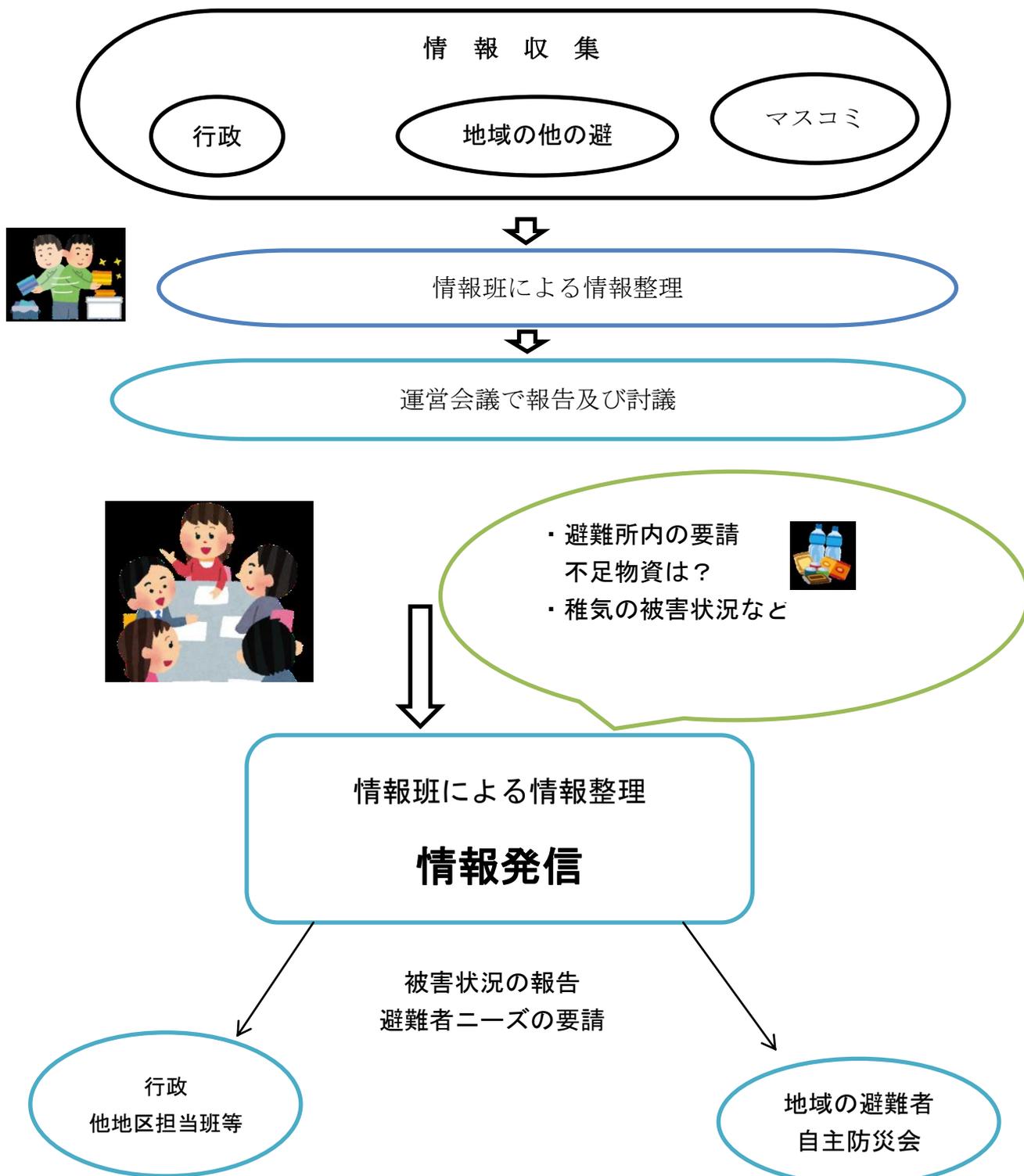


情報班

災害時の通信手段が絶たれた状態では、情報が錯綜します。被災者にとって必要な情報を収集するためには、自ら行政機関へ出向いたり、他の避難所との連携をとるなどして、情報収集に努める必要があります。

また、適切な支援を受けるために、避難所の状況を正確かつ迅速に外部へ伝達することもとても重要です。避難所から地域の被害情報を発信することによって、行政は被災地全体の被害状況をより詳しく把握することができます。



(1) 行政からの情報収集

- ・各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集することも必要です。
- ・各種連絡先を一覧表にし、運営本部に設置します。必要な連絡先は以下のようなものがあげられます。

ア市（各避難所に配備されている地区担当班）

イ警察、消防、病院、医院

ウライフライン関連機関（水道・電気・ガス等）

エ日本郵便(株)

オ地元マスコミ（新聞社、ラジオ局（ラジオエフなど）、テレビ局）

カ近隣の避難所

キ自主防災会長、民生委員・児童委員連絡先

クボランティア連絡先等

- ・災害時には情報が錯綜します。定期的に（1日に1回程度）市の地区担当班から情報収集することも必要でしょう

(2) 他の避難所との情報交換

- ・給水車や開店している商店の情報など、その地域独自の情報は、口コミの情報が非常に有効です。

近隣の避難所と情報交換することで、地域の状況を理解することができます。

ただし、情報源については明確に把握し、デマに踊らされないように十分に注意を払いましょう。



- ・地域内の避難所同士で組織的なネットワークを構築すると、より効果的です。
- ・パソコン通信のできる人がいれば、パソコン通信を利用して、情報を交換することも可能になります。
- ・ファックスを利用してネットワークを構築することも可能です。



(3) 各種マスコミからの情報収集

・テレビ、ラジオ、新聞などのあらゆるメディアを駆使して、情報の収集にあたります。特に発災直後は、あらゆる情報が不足します。手分けして各メディアを見ることで、効率よく情報を収集しましょう。

・集まった情報は、できるだけ早いうちに整理します。

・情報は常に新しくなるので、その情報を受けた日時は必ず明記しましょう。

ア 被害状況

イ ライフラインの復旧状況

ウ 鉄道、道路などの交通機関の復旧状況

エ 生活関連情報（スーパー等の開店状況、銭湯の開店状況など）

オ 被災者支援情報（り災証明書発行、住宅再建補助など）

(4) 行政への情報発信

・発災直後は非常に情報が錯綜します。情報伝達の効率化、信頼性を高めるためにも、情報の窓口は一本化し、情報担当者を設定することによって、行政との間に信頼関係を築きやすくなるともいえます。

・発災直後は、被災状況を含めて頻繁に（2～3時間おき）状況を報告しましょう。地域の被災状況もあわせて報告すると、行政機関が全体の被害状況を把握する上で非常に役に立ちます。

・必要な物資・食料は、運営会議で取りまとめ、優先順位をつけて効率よく行政に要望していきます。

・その他ボランティア団体、地域の業者など、必要に応じて協力を要請しましょう。

情報の錯綜を防ぐためにも、報告内容は文書で市の地区担当班へ渡し、ファックスで災害対策本部へ送信してもらいましょう。



(5) 避難所内向け情報伝達

正しい情報を避難者全員が共有することは非常に大切なことです。
避難所内にある情報を効率よくかつ漏れのないように避難者に行き渡らせる必要があります。

情報収集

行政

地域
他の避難所

マスコミ

情報班による情報整理

運営会議で報告及び討議

情報班による情報整理

情報発信

重要な情報

情報班長から居住組へ報告



復旧・復興情報など



掲示板

(6) 避難者全体への情報伝達

- ・避難所内での情報伝達は、原則として文字情報（貼り紙など）を用い
掲示板を作成します。P6 図1 掲示板参照
- ・施設内入口付近など避難者全員が確認しやすい位置に掲示板を設置します。
 - ア 最新情報（今日入った情報）
 - イ 行政（県・市）からのお知らせ
 - ウ 生活情報（お風呂、給水車、ライフラインなど）
 - エ 交通情報（鉄道復旧状況、交通規制など）
 - オ 復興情報（求人、復興資金など）
 - カ 施設関係情報（避難所となった施設に関する情報）
 - キ 避難所新聞（かわら版）
 - ク 何でも伝言板（避難者同士の情報交換掲示板）
- ・避難者へ定期的に掲示板を見るように呼びかけます。
- ・掲載する情報には必ず、掲示開始日時を掲載し、いつの時点の情報であるのかを明確にします。
- ・掲示板に無秩序に情報が掲載されることを防ぐために、掲載する情報は情報班で受け付け分類した後、張り出します。
- ・避難者生活の長期化につれて、情報は増加の一途をたどるので、新着情報のみを貼る掲示板を別に設けるなどの工夫をするとよいでしょう。
- ・情報を追加するだけでなく、古い情報を削除するなどして情報を管理する必要があります。
はがした掲示物は、分類別にファイルを作って → 
保管しておくとよいでしょう。

P6 図2 掲示板の管理参照

- ・発災直後には、校内放送の活用も有効です。ただし、住居環境の快適性を損ねることもあるので、緊急事態の数日間以降は放送による連絡はできるだけ少なくしましょう。
- ・人手に余裕がある場合には、必要な情報をまとめた冊子等を作成してもよいでしょう。
- ・特に重要な項目については、運営会議で情報班長をとおして、居住組へ直接伝達してもらおうとよいでしょう。

掲示板の例

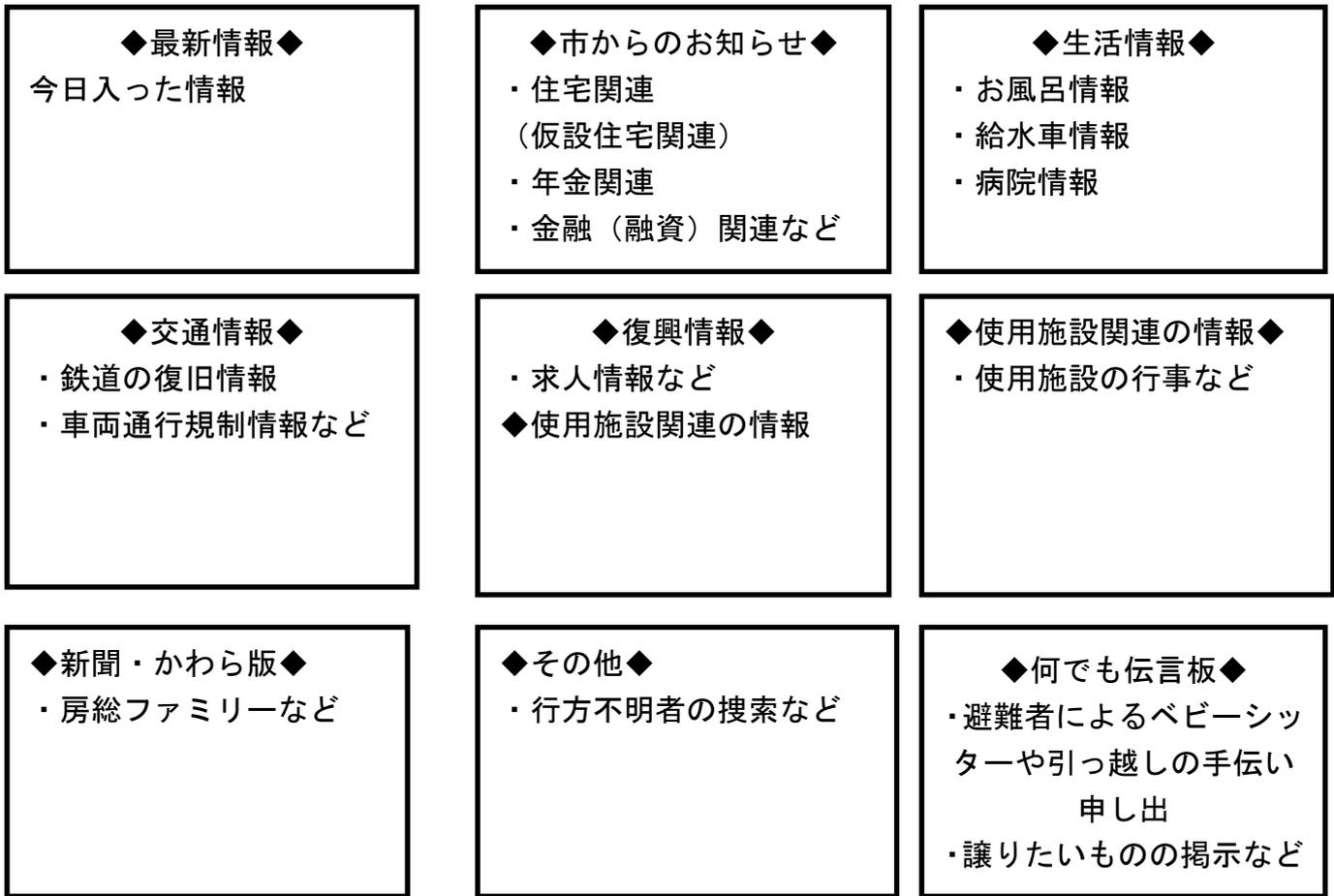


図1 掲示板

掲示板の管理

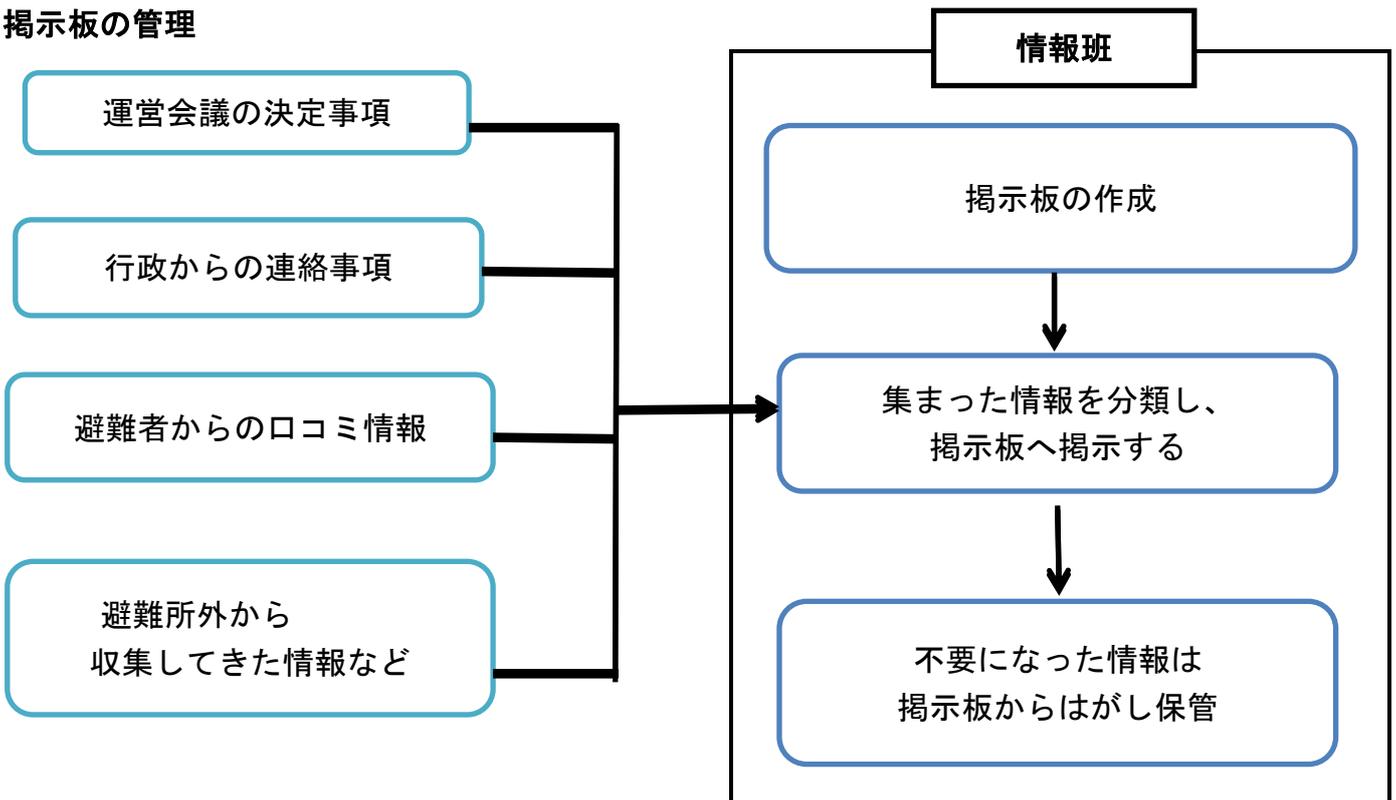


図2 掲示板の管理

(7)避難者個人への情報伝達

- ・避難所内が混乱している状態での避難者個人宛ての伝言、郵便、荷物は、連絡用の伝言ボックスの中に入れます。
- ・居住組別に伝言ボックスを設け、居住組長が受け取りに来る体制を作ります。
- ・情報収集・情報伝達は、それぞれで連携を取り合って、効率よく行っていくことが重要です。



伝言ボックスの中は個人情報です。
取扱いに注意しましょう。

個人宛ての伝言・郵便・荷物など



情報班で仕分け

居住組別の伝言ボックスへ

居住組長から
個人へ引き渡し



避難所内が
落ち着いてきたら

郵便・宅配業者から
個人へ引き渡し

確認・報告をしましょう！！

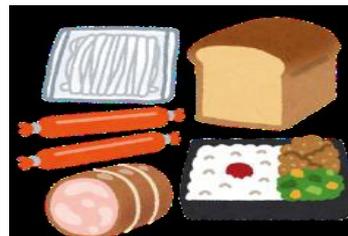
＜発災直後に確認・報告しなければならない項目＞

- ア 死者数
- イ 負傷者数
- ウ 避難者数（就寝者数等）
- エ 食事必要数



＜避難生活において毎日確認・報告すべき項目＞

- ア 避難者数（就寝者数）
- イ 食事必要数
- ウ 避難者からの要望など



＜地域の情報拠点＞

- ア 発災直後の混乱状況下においては、各種の情報はまず避難所を中心として伝達されることが予想されます。（避難所は地域の情報拠点）
- イ 自主防災会と連携して、地域への情報発信にあたります。
- ウ どのような方法で情報を発信するかについては、自主防災会と協力して検討し、地域住民全体へ情報伝達しよう。
- エ 自主防災会と避難所運営委員会が協力連携して、避難所を中心とし地域に情報を発信することも大切です。
- オ 避難所外の被災者が自由に情報を得ることができるよう、外部の人でも見ることのできる場所（校庭の校門脇など）に掲示板を設置します。
- カ 情報が錯綜することを防ぐため、掲示板には必ず、避難所内で掲示しているものと同じ情報を掲示します。